

令和2年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 札幌地区
- 2 事例報告学校名 : 札幌市立真駒内公園小学校
- 3 報告者 : 校長 関根 治彦
- 4 キーワード : 地域のもの・人・ことを生かした教育活動

I はじめに

真駒内は、開拓使によって開かれた牧牛場で、70年にわたって北海道の畜産と農業の発展に大きく寄与した地域です。第2次世界大戦後、アメリカの軍用地として接収されていましたが、キャンプ地が返還されてからは公営やURの団地群が建ち始めています。そして、札幌オリンピックのメイン会場となってからは本格的に宅地開発が行われると同時期に地下鉄南北線が開業し、爆発的に人口が増え、小学校が4校体制となりました。しかし、他のニュータウン同様、施設の老朽化、人の高齢化が進み、平成24年、真駒内地区小学校4校の統廃合が実施されました。

本校は真駒内小学校と真駒内曙小学校を統合し、開校9年を迎えた学校です。立地は真駒内公園に接し、自然に恵まれ、校区内には札幌オリンピックゆかりのスポーツ関連施設や文化施設も多い地域です。

前述した統廃合した2校と町内会の結びつきが強いことが、そのまま本校に受け継がれ、地域町内会からの協力や期待も大きいです。また2校の卒業生には宇宙飛行士の山崎直子氏やノーベル物理学賞候補に挙げられる東北大学学長の 大野英男氏を始め、数々の著名人がおり、様々な折に関わりをもっていただいています。

II 地域のもの・人・ことを生かした教育課程

本校は「一人一人が主人公となる学校」を合い言葉に、児童一人一人を大切に、教職員一人一人が生き生きと活躍できる学校作りを行っています。その教育活動は「本物から学ぶ」「まこえん活動（縦割り活動）」「安心安全な学校」「真駒内ならではの教育」「心豊かに学ぶ」「統一感のある学び」を6つの柱とする「まこえんスタイル」として構成されています。その中で「真駒内ならではの教育」は前述した2校の伝統と真駒内の歴史に支えられた深い地域との関わりが、教育課程に位置付いています。



III 地域のもの、人、ことを生かした具体的な取組

1 地域のもを生かした取り組み

(1) セキスイハイムアイスアリーナとの連携

札幌市では冬の体育の学習として、スケートやスキーを行っています。ほとんどの学校がスキーを選択している状況です。本校では全学年体育科の学習として北海道体育文化協会のセキスイハイムアイスアリーナと連携し、スケート体験教室を実施しています。当日は保護者のボランティアが50名以上参加し、子どもたちの靴の履き替え、滑走始動補助などにご協力いただいている。この取組により放課後や休日にアイスアリーナにス



ケートを滑りにいく児童が増えてきています。

2 地域の人をいかした取り組み

(1) 札幌市豊平川さけ科学館との連携

札幌市豊平川さけ科学館（以降、さけ科学館）は 1978 年に始まった「カムバックサーモン運動（豊平川にサケを呼び戻そう）」の中心となるべく作られた施設である。本校では 5 年生の総合的な学習の時間「サケと共に生きる街 真駒内」ではさけ科学館の学芸員さんがサケについてのお話だけでなく、採卵受精作業の体験などと連携し、学習を展開しています。



(2) 「川の楽校」事業との連携

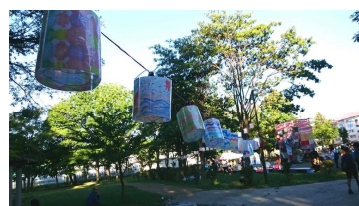
本校に流れる真駒内川を利用し、1 年生の生活科「かわのがっこう（川の楽校）」では、国土交通省、北海道技術コンサルタントと連携し、講師を派遣していただいています。真駒内川で川での安全な活動の仕方や、川の中の生き物の観察などの活動をしています。当日は保護者ボランティアが 30 名以上参加し、子どもたちの安全確保にご協力いただいています。



3 地域のことを生かした取り組み

(1) 上町公園盆踊りとの連携

4 年生の図工の学習では、真駒内連合町内会と連携し、折り染めの作品を盆踊り会場の行灯として利用しています。上町公園盆踊りはもともと盛大な地域行事であったが、現在は子どもの参加が多くを占め、大人の参加が減ってきている状態でした。この行灯の飾る活動を通して、保護者が子どもと一緒に参加する機会が増え、次第に参加人数も増えてきています。



(2) 雪灯りの街事業との連携

4 年生総合的な学習「真駒内の冬を楽しもう」では、真駒内上町町内会と連携し、「雪灯りの街」に参加させていただいています。当日は、雪像を作成したり、町内会の方々から指導を受けてスノーキャンドルを作成したりしています。点灯式は課外となるため、保護者同伴での参加となっていますが、ほとんどの児童が参加しています。また、それを楽しみにやってくる経験者の上級生、中学生もあり、子どもたちが地域活動に根ざす一躍を担っています。



IV おわりに

学校が地域のもの・人・ことを生かした学習をしていく最大のメリットは、子どもたちが地域の皆様に支えていることを実感し、子どもたちが積極的に地域に帰っていき、子どもたちが地域コミュニティの一員としての自覚と誇りをもっていけるようにしていけることと考えます。そのためには、管理職が学校の顔として、地域とのつながりを大切にし、地域に感謝することを忘れずに、地域に愛される学校として伝統の襷をリレーする、今後もそうありたいと考えます。